

大阪・関西万博開幕1年 計画される再開発 未払いなど未解決も

井手千夏 鈴木拓也 社会 | 最新記事 | 大阪 | 関西

毎日新聞 | 2026/4/10 11:00 (最終更新 4/10 11:00) | 有料記事 903文字

解体作業の続く大阪・関西万博会場＝大阪市此花区の夢洲で2026年4月7日午後3時23分、本社ヘリから

世界中から2500万人超が訪れた大阪・関西万博は、13日で開幕から1年になる。

半年間にわたる活況が過ぎ、会場となった大阪市の人工島・夢洲（ゆめしま）は、パビリオンなどの解体が進む。並行して大阪府・市による跡地開発が行われている。

シンボルとなった1周約2キロの大屋根「リング」は人気を受け、北東側約200メートルを展望台として残すことが決まった。近くに情報発信の拠点「EXPO2025記念館」（仮称）が建設されるほか、周辺約2・9ヘクタールも記念公園になる。

大阪・関西万博の会場跡地に大阪府・市が整備する記念公園のイメージ図＝大阪都市計画局提供

会場約155ヘクタールのうち北側の約42ヘクタールは、民間が開発を担う。サーキット場やウォーターパークなどにする案が出ており、大阪府・市が開発方針を決めた上で事業者を公募する考えだ。

華やかさだけでなく

一方、パビリオンの解体に遅れも出ている。3月にはチェコとトルクメニスタンでの未着手が判明。理由は不明だが、会場の土地は2028年までに大阪市に返還される予定だ。

万博の話題は、華やかさばかりではなかった。

アンゴラパビリオンは下請け業者らが工事費の支払いを求め、「被害者の会」を設立。他でも未払いを訴える業者が相次ぎ、一部は訴訟に発展した。府によると、11カ国の海外パビリオンで未払いに関する相談が寄せられている。

日本国際博覧会協会（万博協会）は、未払いは業者間の問題として事態を静観。被害者の会は国や万博協会に立て替えなどを求めているが、解決の糸口は見えていない。

大阪・関西万博の最終日、「フラッグパレード」でフィナーレを迎えるミヤクミヤクラ＝大阪市此花区で2025年10月13日午後4時52分、長澤凜太郎撮影

さらに、無許可業者による工事参入も判明した。大阪府警は25年9月、アンゴラパビリオン工事に関わった大阪市の建設会社社長らを建設業法違反（無許可営業）容疑で書類送検。大阪簡裁は罰金30万円の略式命令を出した。タイパビリオンも無許可業者が関わったとされ、府警の捜査が続く。

夢洲では日本初となるカジノを含む統合型リゾート（IR）の整備も行われている。

カジノが入る建物は地上27階、地下1階建て、高さ126メートルになる予定。VIP向けや大衆向けなど、客層に合わせたカジノ施設が入り、約1万1500人を収容可能だ。開業は30年秋ごろを見込んでいる。【鈴木拓也、井手千夏】

<建設事業者の皆様へ>

海外パビリオン建設にかかるご協力のお願い

出展国または元請け施工者からの依頼※が届いた際には積極的な受注協力を頂けると幸いです。

※ 海外パビリオンの建設にあたっては、各国においてそれぞれ状況が異なります

- ・ 代表して設計・施工・運営までを担うフルターンキー事業者やプロジェクトマネジメント事業者が、実際に設計や施工を行う日本の事業者を探している
- ・ 元請を担いたい事業者が設備工事事業者を探している など

お願い詳細

国内建設市場が引き続き需給逼迫していることなどにより、特に下記の項目において、日本側の施工事業者の皆様のご協力を頂けると幸いです

- ・ 元請け施工 ・ 電気設備工事※ ・ 空調設備工事※

※ 設備工事については、敷地境界付近の1次側接続ポイントまで博覧会協会にて配管配線工事・供給致しますので、いずれも2次側の工事が対象となります

海外パビリオン建設に関心のある建設事業者の方への各種情報提供とご質問への対応のため、相談窓口を開設しています

- ・ 関心のある国のパビリオン整備にどう参画したらいいかわからない
 - ・ 参画したいが会場の施工環境がわからない
 - ・ 参画を考えているが、交渉にかかる助言がほしい など
- ご質問やご相談があれば、下記までお問い合わせください

【海外パビリオン建設相談窓口】

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 国際局国際部

メールアドレス：intldesk@expo2025.or.jp

万博の顔となる海外パビリオン建設プロジェクトにおける皆様のご参画は、万博を成功させるために必要不可欠だと考えております

博覧会協会としても、海外パビリオン等の工事が円滑に進むよう、施工環境の向上策について、可能なものから早急に対応していく所存でございますので、何卒ご協力のほどお願い致します

